

海峡

愛媛県

泥臭く文学の真の力を

「紀子姉」の作者藤井総子さんは、同人雑誌「海峡」の草分けの一人です。

「海峡」は今から二十四年前の一九九八年、愛媛県今治市で創刊されました。その名称は今治市の沖合にある来島海峡に由来しています。来島海峡は、その昔、河野水軍や村上水軍の軍船が往来した海峡です。

「海峡」が創刊された当初、同人は二十三人いました。いずれも、かつての文学青年上がりとおぼしき書き手ばかりで、とても活気がありました。私は創刊の二年後に加入したのですが、それまで、小説とか文学に無縁だった私は、隅の方で小さくなっていったものです。

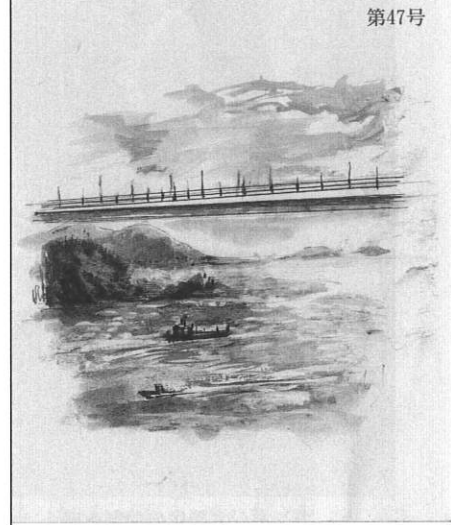
その後、これらのメンバーは加齢や体調を崩して退会したり鬼籍に入ったりして徐々に欠けて行き、現在、創刊当時のメンバーで残っているのは藤井さんだけになりました。今改めて彼らの作品を読み返してみますと、レベルが高く、力量の程が偲べれます。やはり、彼らは若い頃からよく読み、よく書いていたのでしょう。往時の作品に比べると、最近の海峡の作品は小ぶりになった感を否めません。



『海峡』同人。前列左から、竹田悦子、藤井総子、永野英子、YOKO、西山慶尚、小野禮子
後列左から森本隆を、日吉平、鈴木強、平子一

海峡

第47号



創刊から二十四年、海峡も色々と浮き沈みがあり、現在の会員数は十一名になりました。かつての人数の半分以上ですが、私は十一名もいればやって行けると思っています。「海峡」には、主宰者とか核になる指導者はいません。意識的にそうしているのではありません。創刊当初はリーダーがいたのですが、彼が亡くなった後、然るべき後継者が育たなかったのです。そのため、「海峡」は集団指導体制を取っており、編集委員も会員の半数に当たる五人でやっています。素人がみんなで力を合わせ、手探りで書いている。「海峡」はそんな感じの同人雑誌です。

そのせいもあるのでしょうか、ある評論家から「『海峡』は地味な同人誌である」と指摘されたことがあります。その通りで、地味と言うより、素朴ないしは泥臭いと言った

方がいいのかもしれませんが。しかし、私はそのような指摘は全く気になりません。なぜならば、垢抜けした作品よりも、素朴で泥臭い作品の方が私の性に合っているからです。これは洗練された作品が書けない者の僻みでもあるのですが、その背景には、地方の同人は地方のことを地方の言葉で書けばいい、という開き直りもあります。

前にも述べましたように、「海峡」は小規模で地味な同人誌ですが、「海峡」の作品は、これまでに「まほろば賞」の候補に二度選ばれていて、今回同人雑誌推薦作として掲載された藤井さんの作品を入れると「文芸思潮」掲載は三度目になります。また銀華文学賞では、最優秀賞と河林満賞をそれぞれ一度ずつ受賞しています。「海峡」の地味な作品がこうして評価されることは、同人の一人として誠に有難く、関係者各位に厚く御礼を申し上げます。

会員の減少と高齢化の波は「海峡」にも押し寄せています。私もかつての教え子などを頼って会員を確保することは簡単ではありません。このままでは、地方の同人雑誌や文化団体は遠からず消滅してしまうでしょう。この危機をどう乗り越えるのか、私たちは大きな課題に直面しています。

さて、藤井さんは長い間編集責任者として多忙な思いをして来ましたが、その間も書くことへの情熱を失うことな

くこつこつと書き続けて来ました。今回、それらの作品の中の一つが同人雑誌推薦として多くの方に読まれる機会を得たことは、たいへんうれしいことです。

藤井さんはこれまでに五十作ほどの短編や中編を書いてきました。いろいろなジャンルの作品がありますが、最も多いのは、家族の間で起こる葛藤や確執をテーマとした「家族もの」です。家族ものは藤井さんの独擅場で、どの作品も、他の書き手の追隨を許さないほどユニークです。

家族ものに次いで多いのが、藤井さんの故郷である高知県佐川町岡崎を舞台とした「故郷もの」です。藤井さんにとって、故郷は心の原点であり、書かずにはいられない何かがあるのでしょう。そう言えば、愛媛県出身の大江健三郎の作品にも彼の故郷である内子町大瀬が登場しており、内子町大瀬と佐川町岡崎は共に山間の川添いに発達した小さな集落で、そのたたずまいや雰囲気がよく似ています。今回の作品は家族ものですが、随所に故郷ものの片鱗を垣間見ることができます。

「紀子姉」は、交通事故で片足を失った涼子が、志半ばで倒れた姉の遺志を継ぐため、医学部を再受験して小児科医になろうと決意したところで終わっています。

涼子は果たして医学部へ合格したのか。私は久し振りに続きを読みたくなる作品に出会いました。

(西山慶尚)

「海峡」

〒799・1522

愛媛県今治市桜井四・二・一八

「海峡」発行者 藤井総子

TEL 090・3788・5207

文芸思潮文庫

明日のブルドッグ



高橋三千綱



作家高橋三千綱の遺作 500円
注文はアジア文化社まで